

第12回 安全・安心推進会議 会議要旨

1 開催日時

令和6年11月8日（金） 14:30～16:00

2 開催場所

北九州市立生涯学習総合センター 3階ホール

3 出席委員数

25名

4 議題

北九州市安全・安心条例 第3次行動計画（素案）について

5 主な意見

子どもの登下校の安全確保について

- 通学路も場所によっては、防犯灯が整備されていない場所もあるため、市に対応していただきたい。
- 小中学生の登下校時の不安を解消するため、地域によっては、部活動後の下校時間に合わせた夜間パトロールも実施している。

外国人に関する課題について

- 登下校時に子供たちが外国人の集団に声をかけられ、何を言っているか（言葉が）分からず、怖いと感じたという声があがっている。
- 外国人の方が自転車で狭い道を並列で通行するなど、子供たちにとって危険な場面もあるが、積極的に日本について学び、ルールを守って生活している方も多くいる。今後、外国人の方が増えていくと思うが、少しずつ日本の生活に馴染んでいくのではないかと思う。
- 外国人に対して、日本の風習などを教えることも大事だと思うし、一方で、地域も外国人に慣れて、受け入れる気持ちを作っていくことも必要である。両者がうまく付き合える社会にしていくことが一番、安全安心に繋がっていくと思う。

匿名・流動型犯罪グループの台頭について

- 従来の侵入盗などとは性質が異なり、玄関や窓を叩き割るといった荒っぽい手段を用いることが多い。従来の防犯対策では守り切ることができないため、住宅防犯の見直しを強調した方がいいと思う。

- 素案において、若者が犯罪行為に加担しないための取組については記載があるが、環境側として、住宅の防犯対策の強化を市民に促すような内容も入れてはどうか。

自助意識の高揚について

- 北九州市も含め、全国的に右肩下がりであった刑法犯認知件数がここ2年でリバウンドしている。ハード面の対策をいくらしても、ソフト面をおろそかにしては意味がない。ハード面の対策とソフト面の対策を同時に行っていく必要がある。90%以上の体感治安を得るためにも、行政だけでなく、市民も一緒に動かなくてはならないということを啓発していく必要があると思う。

北九州市における企業活動について

- 警察と行政がスクラムを組んで、暴力団対策を行ったことで、ここ10年くらいで随分、北九州市のイメージも変わって、企業活動がしやすくなった実感がある。
- 引き続き治安を良くしていくことに加えて、治安が改善してきたということを外に発信していくことが大事になる。

防犯カメラの設置促進について

- 防犯カメラは現在、繁華街に88台、主要駅周辺に26台設置している。また、地域の方々に防犯カメラの補助金を支給しており、現在、160団体に512台の補助金を支給している。
- 防犯カメラはかなり効果があると思っている。行政としても予算を増額したり、企業に協力を依頼したりして、防犯カメラを増やしていくことが、犯罪の未然防止につながると思う。
- 防犯カメラの設置については、市民から要望があがってきている。行政や警察、地域団体など防犯カメラを設置している団体が異なるため、関係機関と調整をしながら、増設については検討していきたい。